

♀3 頭に対して♂は 10 頭発見されていることから、♂は産卵にやってくる♀を待ち伏せているものと考えられる。

ちなみに本種に近縁とされるヒメオオクワガタ *Dorcus montivagus* (Lewis)もブナなどの立ち枯れや倒木上、それらの接地部分、キツキ類が穿った穴の中などでもしばしば発見される。しかし、筆者がこれまでこういった場所で観察しえた 10 数例(長野県, 三重県, 奈良県)は、すべて♀であった。広葉樹生木の枝先で見られる個体は有意に♂が多い。この種の場合、♂は樹液を占有し、そこにやってくる♀と交尾するという戦略しかとらない可能性が高い。

アカアシクワガタの場合、♂も長寿だからどうせ樹液を摂食しなければならない、そこにやってくる♀と交尾することができたら一石二鳥だ。しかし、産卵場所にやってくる♀と交尾することができれば、より確実に自分の子孫を残すことができる。それぞれの♂個体がどういうきっかけで、その待ち伏せ場所を選ぶのか非常に興味深い。

なお、吉野熊野国立公園特別保護地域内での採集は、環境省の許可を受けておこなったものである。

参考文献

- 秋田勝己, 1988. コルリクワガタ類♂の配偶戦略について, 月刊むし(205): 41.
秋田勝己, 1995a. 三重県および周辺地域のクワガタムシ(1), ひらくら 39(1): 1-11.
秋田勝己, 1995b. 三重県および周辺地域のクワガタムシ(2), ひらくら 39(2): 17-29.
秋田勝己, 1995c. 三重県および周辺地域のクワガタムシ(3), ひらくら 39(3): 35-44.
三村義友・柴崎草原・鳥羽明彦, 1988. ヤエヤママルバネクワガタの生態に関する知見, 月刊むし(214): 18-19.
水沼哲郎, 1985. タテヅノマルバネクワガタ種群の再検討, 月刊むし(171): 15-23.
岡島秀治・山口進, 1988. 検索入門 クワガタムシ, 保育社, 大阪.
田花雅一・奥田則夫, 1992. マグソクワガタについて, 月刊むし(256): 4-9.
山口進, 1987. チャイロマルバネクワガタの生態, 月刊むし(197): 30-31.